

巻 頭 言

秋田県立大学理事（研究・地域貢献担当）

飯田 一朗

秋田県は、首都圏から遠く冬が長いなど地理的に不利な面が多く、人口減少が止まらないという難題を抱えている。八方塞がりのように感じることもあるが、見方を少し変えれば、地域内に十分な食糧自給体制があるということでもあり、今後デジタル化を正しく進め需要と供給をきめ細かく制御できれば、持続可能なスマート社会構築を全国に先駆けて実現することも夢ではないと思っている。またコロナ禍による大都市での移動の制限から遠隔会議が急速に普及し、従来は呼ばれなかった各種会議へ秋田から遠隔参加することが容易になったことも我々にとっては好機である。

私は、情報通信が専門で、大学を卒業してから今までインターネットの進化の歴史を間近にみながら仕事に携わるという幸運に恵まれたが、今振り返ってみると、処理の効率化や高速化の方向だけに技術革新が使われ、人間視点でのシステム構築や運用がないがしろにされていたように感じることもある。人間の処理能力と機械の処理能力の格差は広がるばかりであり、機械が処理する速度に人々が追いついていけなくなっているような気がしてならない。昨今、SDGs（Sustainable Development Goals）が注目されているが、これも過度な効率化による歪みを戒める思想のように個人的には感じており、地球環境や人間の生活環境を視野の中心に置いたエコシステムの構築が今後のトレンドになっていくのではと思われる。

本学は、生物系とシステム系が並存し、まわりには素晴らしい自然環境がある全国にも例がない恵まれた学習研究環境である。自分の専門領域だけでなく、無関係のように見える他領域の研究にも目を光らせ、これらを協調・融合させる研究を立ち上げ、加速すべきだと考える。

Web ジャーナルは、こういった多様化する技術領域や地域に根ざした研究成果を一望できるメディアであり、新しい発想を生み出すためにもっともっと活用いただきたいと思う。

2021年11月